

**編集後記：**昨年から担当が変わって、主に学会関連行事予定、他にシンポジウムと学位論文の原稿を担当しています。皆様の投稿をお待ちしています。

遡ること数年前、「会員により興味を持って読んでもらえるような「天気」にするにはどうすればよいか」という話題となり、研究者などの専門家だけでなく、予報士や行政職などの会員にとっても興味深いコンテンツを増やすべきというような意見が出たことがありました。そこで、当時は観測関連の業務に従事していましたので、周りの同僚や上司に、どんな記事を好んで読んでいるか取材してみました。「やはり論文がない号は物足りない」という正統派から、「自分の仕事の分野に関連する記事があれば読む」など、ユニークながらも意外に言い当てているかもしれない意見は、「真っ先に編集後記だけ読んで書棚にしまう」。

私自身は、何と浅はかにも、「研究会やワークショップの報告は、専門用語ばかりだし、研究者同士の内輪な議論が多いように感じられて、あまり好きでない」と、うっかり口をすべらしました。すると、その場に居合わせた研究分野での経験が長い人が、「研究者からすると、会合の雰囲気とともに最先端の議論を知ることができるし、仲間内の動向もよくわかるのでとても重要だ」と、教えてくれました。

その後、はからずも自らが研究職に就くことになり、しかもシンポジウムや研究会報告の原稿を担当する機会を得て、その方のおっしゃっていた意味がよくわかるようになりました。立場が変わると、また別の発見があるのが「天気」ということで、これからもいろいろな記事に出会えることを楽しみにしています。

(大塚道子)